Jaoニュース

４０８号　２０２５年１１月

発　行　じゃおクラブ
責任者　大澤　輝之
編　集　事務局
URL　https://jaoclub.com

事務局だより

会員数（2025 年 10 月 1 日現在）

湘南	県央	ベイサイド	多摩・田園	計
37	29	28	28	122 名（E グループ会員：112 名）

入会・退会：なし

Windows 10 のパソコンの買い替えやスマホへの乗り換えをご検討ください

Windows 10 搭載のパソコンを使用されている会員は、パソコンの買い替えやスマホへの乗り換えをお願いします。

新聞やテレビでも報道されたように、Microsoft の Windows 10 のサポート期間は 2025 年 10 月 14 日で終了しました。引き続き Windows 10 のパソコンを使用された場合、ご自身のパソコン内に保存されている個人情報（例えばじゃおクラブの会員名簿など）が流出するなどの危険も考えられます。すでに検討されているとは存じますが、対応をお急ぎください。

じゃおクラブのホームページ閲覧数の調査から、サポート期間終了後も Windows 10 を使用している方が一定数あるとわかりました。ホームページの閲覧は 70～80%が会員なので心配しています。

パソコンが Windows 10 かどうかを調べるには

1. Windows の画面で または のアイコンの右横の検索窓に winver と入力し、Enter キーを押します。
2. 表示された小さい画面で、ご使用中のパソコンが Windows 10 であるか Windows 11 であるかがわかります。

次回の運営委員会と HP サークル

臨時運営委員会　日時：2025 年 11 月 1 日（土）10:00～12:00　オンライン開催
議長：大澤委員　書記：加藤委員

運営委員会　日時：2025 年 11 月 16 日（日）10:00～12:00　オンライン開催
議長：加藤委員　書記：坂井委員

HP サークル　日時：2025 年 12 月 14 日（日）15:30～17:00　オンライン開催　議長：竹内委員

会員だより

猛暑の置き土産

湘南　早川　賢

事件発生、9 月 6 日午前のことである。現場は藤沢市打戻にある「じゃお農園 1 号畑第Ⅲ区画」でのことである。

①シロイチモジヨトウ（ヤガ科）

「グエッ…こ、これは…一体…？」そこは墓場だった。猛暑を懸命に耐え、先週まで葉を繁らせていた里芋畑が、ほんの 1 週間で葉脈だけの見るに耐えない姿になっていたからだ。見渡せば至る所、蛾の幼虫だらけ、なんとその数数万匹いや数十万匹と思われる大群がモリモリと里芋の葉を貪植中ではないか。

異変は他にも。いつも畑に姿を見せていたムクドリの群が、猛暑で今年は 1 羽も姿を見せていないではないか。「え!!　えらいこっちゃ。だ、誰かあ（声にならない心の声）」異変を察し、疾風のように駆けつけたのは我らがヒーロー、MI さん、NT さん、WA さんの 3 名。一見するなり、『こりゃあ…ひどい…』、「こっちにも、（大量に）いますよお…」、【Mamma mia!】茫然自失の私を横目に 3 名の方々、猛烈な勢いで害虫軍団を葉から叩き落とす。たちまち通路は足の踏み場もない状態に。『凄いねえ…』【いやはや、全く気味が悪い】。汗だくになりながらも格闘すること 50 分余り、ヒーローたちの活躍でたちまち全体の 80％程が駆除された。

②ハスモンヨトウ（ヤガ科）

③セスジスズメ（スズメガ科）

全滅寸前の危機を救って下さったヒーローの方々『あっぱれ！あっぱれ！』感謝・感謝。翌々日の 9 月 8 日、世話役の NG さんと一緒に殺虫剤を里芋全体に散布し事件がやっと一段落。めでたしめでたし、里芋の大収穫を楽しみにまっている。

※この物語はフィクションです‥。

ヒマワリ

県央　原　建吾

部屋の片付けをしました、その時ヒマワリの種が入った小袋を見つけました。これは 3,4 年前? に相模の大凧まつりに行った時もらったものです。時期もちょっと遅いし 3,4 年経っていますが、プランターに種を播いてみました。すると三本の発芽をみました、残念ながら二本は枯れてしまいましたが一本は針金の様に細い茎ながら育ってくれました。朝と夕方に水をやりました。それはある人から日中は水をやってはいけないと言われたからです。細かった茎も 5mm を超えて、高さも 120cm 程になりました。そして先端に小さな花芽も見られる様になりました。

その時気がつきました。朝と夕方では花芽の方向が違うのです。昔「ヒマワリはなぜ東を向くか」と言う本を読んだ事を、思い出しました、さっそく捜し出しました。本のタイトルにはなっていますがヒマワリについては、僅か 12 ページ位でした。全部ヒマワリの事と思っていました。他の本かと思いましたが、思い当りません。

その本によりますと東を向くのは遮る物の無い場所の先端だけでその下に花の有る場合は、下にある花はまちまちの方向を向くそうです。ヒマワリは若い時先端近くにある葉は太陽光を最大に受けようと太陽の方向を向き、太陽を追う様になり、それでその先端にある花芽も自然と太陽を追う様な形になります。花弁が少し出たころより西への振り幅が少しずつ小さくなり完全に開花したころ東を向いたまま動きを止めるそうです。僕の部屋のベランダは朝日が早い時間当たらないのでヒマワリはそのせいか南東を向いています。

ヒマワリはいいですね。笑いかけられている様です。自然と顔がほころんできます。

ヒマワリ畑の写真は　星野　道雄さんよりいただきました。

参考文献：「ヒマワリはなぜ東を向くか」　瀧本　敦　　中央公論社

じゃお県央

江戸歴史探訪-その十一

- お題：雑司ヶ谷
- 日時：2025 年 10 月 11 日（土）10:30～13:00
- 参加メンバー：大場幸雄（県央）、別所洋一（県央）、鈴木弘道（県央）、福山信二（県央）、増田勝男（湘南）、小瀬勝（県央）、坂井靖夫（県央）、鹿島正和（県央）、村尾篤彦（ベイサイド）、原建吾（県央）、鈴木寿一（県央）、竹内純一（多摩・田園）、山脇哲朗（多摩・田園）、前田康行（県央）

この散歩も 11 回目になりました。コロナ禍明けの 2022 年に台風で中止したことがあったぐらいで、これまではだいたい天気には恵まれました。実は私は晴れ男でして、今回も大丈夫のはずだったのですが、集まったメンバーに雨男なる人が 2 人ほどいることが判明。さすがに 2 対 1 では分が悪く、結局雨となってしまいました。それでも私の 1/3 ほどの晴れ男効果があったのか、ほとんど苦にはならない程度の小雨だったのは幸いでした。我ながら、晴れ男の本領が多少なりとも発揮できたかと一安心。

というわけで、今回は小雨の中、池袋駅からの雑司ヶ谷散歩です。それにしても池袋駅は大きいんですねえ。神奈川人だと、なじみと言えば新宿駅で、池袋駅はあんまり行かないですから、皆さん集合場所に戸惑われたのではないでしょうか。

さて、池袋駅前の喧騒から離れて最初に訪ねたのがお稲荷様、威光稲荷。路地裏のひっそりとした佇まいですが、結構手入れが行き届いていて、地元の氏神様として大切にされていることが感じられます。(写真左)

この横にあるのが法明寺。境内に立派な梵鐘があるんですが説明板の文字が消えかかっていてよく読めません。とにかくなんか由緒のある梵鐘のようです。

法明寺を出てすぐの観静院には弁財天が。そうい

えば池袋駅から来る途中、布袋様にも会いました。今回のルートは雑司ヶ谷七福神めぐりのコースでもあるようです。この法明寺の参道は桜の並木道になっていて、春になると見事な桜が楽しめるそうです。

法明寺から少し歩くと雑司ヶ谷鬼子母神（きしもじん、鬼の字は上の ´ がないのが正式だそうです）。いやあ立派な本殿。どこぞの藩の藩主の奥方様が寄進されたのだとか。とはいえ、安産、子育ての神様ですからね、もはやおじさんたちには縁はないか。皆さんの幸せを祈ってちゃんとお参りだけはしましたけど。

この境内に聳える大イチョウの素晴らしいこと。樹齢600年と書いてありますが、そんなもんかいな、もっとあるんじゃないの、と思わせる堂々とした巨木、圧倒されます。鬼子母神の参道はケヤキ並木。

この並木道の途中にある雑司ヶ谷案内処では、地元のさまざまな情報が得られます。翌週には御会式に伴う万灯練り供養とかいうのがあるのだそうです。これ見てみたいなあ。

鬼子母神から少し歩いた本納寺には「雑司ヶ谷ナス」の看板があり、境内にナスが鉢に植わって実ってました。これが「雑司ヶ谷ナス」の原種なのかな？昔雑司ヶ谷一帯は畑が広がっていて、いろんな野菜の産地だったそうです。中でもナスはおいしかったとか。近くの大鳥神社にも「雑司ヶ谷ナス」の看板がありました。この大鳥神社には七福神の一つ「恵比寿」様が。このあとがいよいよ本日のメインポイント雑司ヶ谷霊園です。

いや、私は別にお墓巡りが好きっていうわけじゃないんですよ、ないんですけど、名のある人たちのお墓と聞くとやっぱり興味が湧くじゃないですか。夏目漱石、小泉八雲、永井荷風、竹久夢二、ジョン万次郎、東条英機さんなどなど。いやあさすが東京、これだけのメンバーに出会うと、墓とはいえ感激しますねえ。霊園からお墓流れで次に護国寺へ。

三条実美（さんじょうさねとみ、幕末の尊王攘夷派のお公家様、明治維新に深く関与した）さんの墓を見て、最後は大隈重信さんのお墓。まあ立派なお墓だこと。鳥居が立ってます。その鳥居には早稲田大学の名が。大隈重信さんは早稲田大学の創立者として皆さんご存じかと思いますが、実は何を隠そう、わが故郷佐賀県の出身なんですよ。それを皆さんにお伝えしたくて、今回のルートの最後に大隈重信さんのお墓を持ってきた次第であります。（写真右）

ということで、小雨の中、なんとか無事に予定コースを歩き終えました。当初は、旧肥後藩細川邸庭園をゴールにしようかと思ってたんですが、少し距離もありますし、雨模様のお天気ということもあって護国寺で終わりにしました。いつかそちらも訪ねたいと思います。

今回の雑司ヶ谷散歩、秋の澄んだ青空の下でというわけにはいきませんでしたが、まあまあ楽しかったかなと自画自賛しております。江戸歴史探訪、来年も企画しますので皆さんそれまでお元気で。

（県央　前田　康行　記・多摩・田園　竹内　純一　写真）

じゃお多摩・田園

大編成オーケストラの迫力 ― クラシック・コンサート鑑賞会

2025 年 10 月 5 日（日）、川崎の「ミューザ川崎シンフォニーホール」にて、東芝フィルハーモニー管弦楽団の第 53 回定期演奏会が開催されました。今回も知人のご厚意により招待券での参加が実現し、11 名の会員が足を運びました。

同楽団は東芝グループの社員を中心に組織されたオーケストラで、アマチュアとはいえ、その水準は非常に高く、毎回充実したプログラムを披露してくれます。

指揮は常任指揮者の河地良智氏。演目は以下の通りでした。

- モーツァルト：「魔笛」序曲
- 芥川也寸志：交響管弦楽のための音楽
- ラフマニノフ：交響曲第 2 番

軽快で親しみやすいモーツァルトの序曲に始まり、今年が生誕 100 年となる現代日本の作曲家・芥川也寸志の力強い作品、そして 60 分に及ぶ大作・ラフマニノフの交響曲第 2 番へと続く、聴きごたえのあるプログラムでした。ホールいっぱいに響く豊かな音色に、心を揺さぶられた参加者も多かったようです。

演奏後、指揮の河地良智氏は、鳴りやまない拍手に応えて「東芝フィルが邦人作曲家の作品を取り上げたことは、これまでにほとんどありません。また、ラフマニノフの交響曲第 2 番は演奏者にとって技術的難易度の高い楽曲です。今年は演奏会が 1 回だったため、じっくり練習が重ねることができました。」と話されました。

参加者からも「有意義な時間と心の栄養を補給出来ました。ありがとうございました。」「久しぶりのクラシックを楽しませていただきました。」「次回の演奏会を楽しみにしております。」といった声が寄せられ、充実したひとときを過ごされた様子がうかがえました。

今回も音楽の魅力を共有できたことを嬉しく思います。次回もまた、心豊かな時間をご一緒できることを楽しみにしております。

（多摩・田園　竹内　純一　記・写真）

シャボン玉とコスモス ― 秋のグラファーズ撮影会

10 月 10 日（金）、グラファーズは昭和記念公園にて月例の撮影会を行いました。当初は 6 名の予定でしたが、怪我や体調不良で 2 名が欠席、残念ですが 4 名となりました。

集合は 10 時 20 分。私は 10 時少し前に西立川駅の改札に着きましたが、だ～れもいません。「あれ？」と思ってチェックすると、集合場所は「昭和記念公園 西立川口入り口前広場」とありました。そうか、駅改札前ではなく公園入口前だったのですね。危ないあぶない。駅直結の歩道橋を渡っていくと、遠くに藤井さんと千葉さんの姿。ほどなく山脇さんも到着し、無事 4 人が揃いました。

この日は 10 時半からコスモス畑で「シャボン玉のフォトジェニックタイム」があります。急ぎ足で歩いて間に合いました。

ピンクのコスモスを背景に無数のシャボン玉が舞い上がり、多くの人がスマホやカメラを向けていました。私は、コスモスの花にピントを合わせつつ、手前に浮かぶシャボン玉もボケないよう、絞りをｆ:11 まで絞り込み、風に舞うシャボン玉がぶれないようシャッタースピードを速めに設定。それをカバーするため ISO 感度を 400 まで上げて撮影しました。フォトジェニックに見えるでしょうか？

その後は 12 時半頃まで、ピンクや黄色のコスモス、色づいたコキアなど、ゆっくり撮影しました。

帰り道、広場にカラフルなベンチを発見したので、記念写真を撮ることにしました。せっかくなので、小ワザを利かせ、同じ構図で 2 枚撮影し、片方の写真に、もう一枚に写った私だけ（右端）を合成しました。“写真マジック”です……。

撮影を終えた後は、恒例の反省会（という名の懇親会）です。月幹事の千葉さんが目星をつけたのは「酒亭玉河」というお店。立川駅北口ロータリーすぐの地下にある居酒屋で、看板には「昭和二十五年創業」と記されていました。私が生まれる前からあるのですね。

生ビールが運ばれてすぐ、お姉さんから席の移動をお願いされました。移動先はお店のはじっこにあるこじんまりした席。どうやら、目立つテーブルにいた高齢者グループを“隅によけた”のかもしれません（笑）。ただ、料理とお酒の品揃えは申し分なく、全員大満足。反省会を楽しく締めくくりました。

こうして、撮影から反省会まで秋の一日を満喫したグラファーズ。次回もまた、素敵な被写体を探して歩きましょう。

（多摩・田園　竹内　純一　記・写真）

仲間と街歩き：江戸の下町風情を歩く ― 深川寺町ガイドツアー報告

10 月 17 日（金)、じゃおクラブ多摩・田園の「仲間と街歩き」では、“江戸の下町風情を楽しむ”と題した深川の寺町巡りを実施しました。参加者は 17 名。当日は前日の雨が嘘のように晴れ、気温もほどよく、まさに絶好の街歩き日和でした。

集合場所の「深川東京モダン館」は大正 11 年建築の旧公衆食堂で、米騒動を機に市民の生活を支えるためにつくられた建物。現在は国登録有形文化財として保存されています。1 階には椅子が並び、早めに到着した参加者は「100 円コーヒー」を飲んだり、軽い昼食を取ったりと、リラックスした雰囲気で出発を待ちました。

ガイドは江東区文化観光ガイドのボランティアお二人。ともに“じゃお世代”のベテランで、深川の歴史や人々の暮らしを軽快な語り口で紹介してくださいました。法乗院（深川ゑんま堂）では、人が死んでから転生するまでを描いた絵図をもとに仏教の死生観を解説。成等院の隣にある豪商・紀伊国屋文左衛門の墓では先人を偲んで手を合わせました。

深川は関東大震災や東京大空襲など、幾度も災禍に見舞われながら復興を遂げてきた街。炎に追われた人々が川に逃れたという話を聞き、慰霊碑に静かに手を合わせました。燃えるものが少なかったが故に、街の中心にある広大な墓地に避難した人々が助かったという説明には一同深く聞き入りました。

最後に訪問した「深川江戸資料館」では、江戸時代後期の町並みを原寸で再現した展示を見学。八百屋や長屋の炊事場までが細部まで再現され、まるで江戸の町に迷い込んだような臨場感でした。現代のように医療が進んでいない時代、病気平癒はもっぱら加持祈祷だったことなど、当時の生活や文化にも触れることができました。

数々の災禍を乗り越えてきた東京では、創建当時の建物が残る場所は少なくなりましたが、ガイドツアーでは人々が語り継いできた歴史に出会うことができます。仲間と歩き、語らいながら学ぶ ―― これこそがガイドツアーの醍醐味です。今後も「仲間と街歩き」を通じて、学びと交流の輪を広げていきたいと思います。

（多摩・田園　竹内　純一　記・写真）